

12月1日9時00分からCRTで収録

視力1.0未満の子、最多。中学生61%。小学生37%、高校生71.5%。昨年度調査。
スマホ・タブレットの影響か

開倫塾

塾長 林明夫

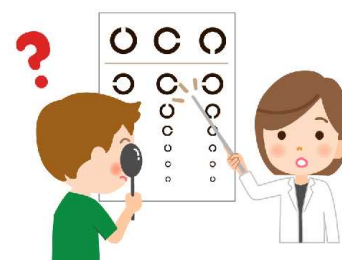
1. (1) 文部科学省が示した 2022 年度の学校保健統計調査によれば

「視力 1.0 %未満の子、過去最多。

- ①小学生、37.8 % (前年比 1.0 ポイント増)
- ②中学生、61.2% (前年比 0.5 ポイント増)
- ③高校生、71.5% (前年比 0.7 ポイント増)

・昨年度の調査

・スマホ・タブレットの影響か



(2) 教室の最前列に座っても黒板の文字が読みづらいとされる「視力 0.3 未満」の小学生は 11.9%だった。2005 年度調査 (5.7%) の比率から倍増し、35 人学級で 4 人いる計算になる。

(3) 近年の視力低下の要因について専門家は近視の予防につながるとされる屋外での活動が減り、スマホやタブレット端末でのゲームや動画視聴の機会が多くなった点を挙げる。

(4) 由々しき状況といえます。この原因は何か。「スマホが手放せない子どもたち」が多い極めて多いことだと推測できます。



2. <関連する情報として>

2023年9月17日塾長緊急メッセージ1012、<読売新聞9月15日朝刊を読む>です。

「インターネットの利用時間」

(1) <高校生>

- ① 5 時間以上は、 60.2 %
- ② 4 時間以上は、 14.8 %
- ③ 3 時間以上は、 13.3 %
- ④ 2 時間以上は、 11.6 %
- ⑤ 2 時間未満は、 5.3 %



(2) <中学生>

- ① 5 時間以上は、 36.7 %
- ② 4 時間以上は、 14.9 %
- ③ 3 時間以上は、 18.2 %
- ④ 2 時間以上は、 14.4 %



⑤ 2時間未満は、 5.3 %

(3) <小学生>

① 5時間以上は、 24.4 %

② 4時間以上は、 12.4 %

③ 3時間以上は、 16.1 %

④ 2時間以上は、 19.9 %

⑤ 2時間未満は、 24.5 %



3. インターネット 4時間以上利用と、視力 1.0 未満との相関が考えられます。

(1) 高校生の 4時間以上の利用 75.0 %、高校生の視力 1.0 %未満 71.5 %

(2) 中学生の 4時間以上の利用 51.6 %、中学生の視力 1.0 %未満 61 %

(3) 小学生の 4時間以上の利用 36.8 %、小学生の視力 1.0 %未満 37 %

4. (1) 日経新聞「スマホ・タブレットの影響か」との指摘は、読売新聞の報道を見れば、「その通り」と考えられます。

(2) ただ、すぐには、スマホは手放せない。そうであるならば、スマホ・タブレットの活用方法を、徹底的に考えたらよいと思います。



5. デジタル端末を使う際の注意点

(1) 姿勢よく椅子に座り、画面から目を 30センチ以上離す

(2) 30分に1回は画面から目を離し、遠くを 20秒以上見る

(3) 遅くとも就寝の1時間前には使用をやめる

(4) 明るい部屋で使い、夕方や夜は画面を少し暗めにする



9月15日9時00分 CRT スタジオで収録

スマホやチャットGTPをつかった「調べ学習」「探究型学習」の方法を考える

開倫塾

塾長 林明夫

Q1: 「探究型学習」にスマホや、インターネット、チャットGTPなどを、どのように用いたらよいですか。

A: 「辞書や新聞、読書、図書館」と同じように、「スマホ、インターネット、チャットGTP」は、「調べ学習」や「探究型学習」に、とても役に立ちます。どんどん「活用」しましょう。ただし、是非していただきたいことが、いくつかあります。



Q2: 例えば、どのようなことでしょうか。

A: (1) 一番、行っていただきたいのは、スマホなどで、次から次に調べる前に、「語句」「言葉」を調べる。予め、「ノート」に「書く」「明記」「メモ」することです。

(2) スマホなどで調べる前に、面倒がらず一語一語、必ずその語句をノートに「メモ」してから調べることです。

(3) ほとんどの人は、知りたいことを、次から次にスマホなどで調べるが、スマホに熱中しすぎて、何を調べたか忘れることもあるからです。

(4) 「必ず、スマホなどで調べる語句は、調べる直前に、ノートに書いてから調べること」が大切です。

(5) これを、皆様の「学習習慣」の一つに、是非加えてください。

○必ず、あとでお役に立ちます。



Q3: そのほかにありますか。

A: (1) スマホなどで調べたことは、全部でなくてもいいですから、大事なことだけでも「ノートに書き写す」ことです。

(2) 特に、ノートに書き写した方がよいのは、「語句」「言葉」の「意味」「定義」です。

(3) 調べた言葉の「意味」、これはこのような意味なのだという、その言葉の「定義」ほど大切なものはありません。

(4) スマホやチャットGTPで、言葉の意味や、語句を調べた時には、調べっ放しにしない。その「意味」や「定義」を、「ノート」に必ず書き写しましょう。

(5) 大切なことだけでOKですから、調べたことは、「ノートに書き写す」。

(6) これも、皆様の「学習習慣」として、加えてください。

(7) その「ノート」は、後で、みんなで議論したり、「中間発表」、「最終発表」をするときに役に立ちます。

Q 4 : スマホや、チャットGTPに出ている内容は、すべて正しいのですか。

- A : (1) 内容が正しいかどうかは、自分の力で判断する以外にはありません。
- (2) スマホに出ていることは、「一つの意見の表明」「こんな考え」「捉え方もあるのか」と、考えた方がいい内容も、たくさんあります。
- (3) ですから、スマホ、チャット GTPなどを、用いるとき一番大切なのは、「批判的思考能力」です。
- (4) この内容は、正しいかどうかを、自分の力で批判的に考える力です。英語で、「critical thinking, クリティカル・シンキング」といいます。
- (5) 例えば、国語辞典、百科事典、新聞、論文、単行本など、どこからその情報を得たのか、スマホなどに出典が明記されている場合には、その内容が信頼できるかどうかを判断するときに役立ちます。



Q 5 : 最後に一言どうぞ。

- A : (1) 「探究型学習」である程度調べたら、「まとめノート」を作り、それまで調べたことを「まとめてみる」ことをお勧めします。
- (2) ①このテーマは、本当は何が問題なのか、問題の本質は何かを、問題の所在をはっきりさせる。
- ②次に、なぜこの問題が起きているのか、その原因を究明、本当の理由は何かを考えまとめてみる。
- ③では、どうしたらよいかを考える。「応急措置」として何をどうすればよいかを考える。また、ゆくゆくは、どのような仕組みを作ったらよいか、「制度変更」を考える。
- (3) 考えがまとまったら、中間発表、最終発表として、まとめる。発表したものを、学校以外で発表し、世の中のために役立てたいと考え、学校以外でも発表する。区長さん、市長さん、町長さん、知事さん、議員さん、商工会議所・商工会・青年会議所の会長さんなどに、「提言書」として提出。記者の皆様にもご説明すれば、取り上げてくれる場合もあります。
- (4) 興味・関心が尽きなければ、大学や、専門学校、大学院に進学し、勉強を深める。海外で同じようなテーマを学ぶことができる大学や大学院があれば、留学も考える。
- (5) 学校を出た後も、自分の仕事や、社会的活動として、一生かけて、探究型学習を続けることをお勧めします。
- (6) なぜこの問題が起きたのか、社会の仕組みを考え始めると、日本の歴史や、世界の歴史まで遡らなければならない、興味が尽きません。
- (7) 小学校、中学校、高校、大学、専門学校、大学院など、学校時代に取り組んだ勉強を、一生かけて追い求める。素晴らしい人生だと考えます。



